

運営評価のシステム (R03)

使命目標 指標		データなど
I 美術を通じた交流を促進する 【集客・交流推進】		
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。 【広報】		
達成目標	・年間観覧者数110,000人以上	<ul style="list-style-type: none"> ・年間観覧者数(年度別推移) ・年間来館者数(年度別推移) ・駐車場利用状況(年度別推移) ・来館回数(年度別推移) *リピート率 ・居住地域(年度別推移) *市民率 ・交通手段(年度別推移)
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。 ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。 ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。 ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。 ・美術館のイメージアップにつながるようなTV放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種メディアへの掲載実績 ・訴求活動の概要(ポスター等配布、リリース発送の状況)
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。 【市民協働】		
達成目標	・市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数延べ2,400人	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業ごとの開催回数、参加者数の一覧 →サポボラ研修 所蔵品展ギャラリートーク(参加者数、参加ボランティア数) 小学校鑑賞会補助(参加ボランティア数のみ) ワークショップ補助(参加ボランティア数のみ) プロジェクトボランティア会議 プロジェクトボランティアイベント(参加者数、参加ボランティア数)
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア関連事業の概要 ・(ボランティアの感想・反応)
II 美術に対する理解と親しみを深める 【社会教育】		
③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。 【展覧会・教育普及】		
達成目標	・企画展の満足度80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・各企画展の満足度 ・所蔵品展の満足度(年度別推移) ・谷内六郎展の満足度(年度別推移)
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。 ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。 ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。 ・美術への興味や理解が深まる美術関連の資料(図書、カタログ等)を収集し、図書室で整理・保管し利用者の閲覧に供する。 ・資料の分類や配架を工夫し、利用しやすい図書室環境の維持に努める。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各企画展(児童生徒造形作品展を除く)の概要(ねらい、担当者の感想・反省点) ・所蔵品展の概要(同) ・谷内六郎展の概要(同) ・講演会・アーティストトーク等の実施状況(同) ・大人向けワークショップ等の実施状況(同) ・図書室の概要(図書新規購入額・点数、寄贈図書の点数) ・図書室の利用状況(利用者の月別推移、担当者の感想・反省点) ・学芸員による論文、発表等

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。 [若年層への教育普及]		
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人	・観覧者数の券種別内訳(月別推移、年度別推移) ・子どもを対象とした教育普及事業の参加者数(延べ人数の年度別推移)
実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。 ・美術館を活用した鑑賞教育がますます充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。	・児童生徒造形作品展の概要(担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・小学校美術館鑑賞会の概要(実施内容、学校数、児童数、対応職員・ボランティア数、担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・中学生のための美術鑑賞教室の概要(実施内容、担当者の感想・反省点)(生徒の感想) ・子ども向けワークショップ等の実施状況 ・研修等の受入れ状況
⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。 [収集管理]		
達成目標	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)	
実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	・作品収集の状況 ・保管環境の状況 ・所蔵作品の修復状況 ・所蔵作品の貸出状況(件数、点数)
Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する [運営・管理]		
⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。 [メンテナンス・来館者サービス]		
達成目標	・館内アメニティ満足度90%以上 ・スタッフ対応の満足度80%以上	・アメニティ関連各項目の満足度(年度別推移) →全般・館内印象・館内環境・休憩所・トイレ・清掃 ・スタッフ対応の満足度(年度別推移)
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、付帯施設(レストラン及びミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	・メンテナンスの概要 ・運営事業者連絡会議の概要(議題等) ・ケータリング実績
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。 [バリアフリー]		
達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ240人以上	・福祉関連事業の開催回数、参加人数 →福祉関連講演会 福祉関連ワークショップ 福祉関連パフォーマンス 障害児を対象としたワークショップ
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう(環境づくり)のための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。	・福祉関連講演会の概要 ・福祉関連ワークショップの概要 ・福祉関連パフォーマンスの概要 ・障害児を対象としたワークショップの概要 ・託児サービスの概要 ・養護学校等の受け入れ状況
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。 [経営的視点]		
達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去2年間の平均値を目安とする。	・エネルギー消費量一覧
実施目標	・職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	・歳入及び歳出の内訳